

学内グラント 報告書

平成20-21年度 学内グラント終了後報告書

がん治療法確立へむけたがん幹細胞と胚性幹細胞に共通する
腫瘍性維持の分子機構解明

研究代表者 西本 正純(ゲノム医学研究センター)

研究分担者 山岸 敏之*

研究成果

- 1) 西本正純, 加藤英政, 片野幸, 山岸敏之, 菱田友昭, 加門正義, 鍋島曜子, 鍋島陽一, 奥田晶彦. 胎盤を持つ哺乳類に特異的な遺伝子の一つであるUTF1遺伝子の胎盤形成における寄与, 第33回日本分子生物学会, 平成22年12月, 神戸
- 2) 西本正純, 奥田晶彦, 大西芳秋. 胚性幹細胞(ES細胞)における時計遺伝子の転写とクロマチン状態の

関連について, 第33回日本分子生物学会, 平成22年12月, 神戸

- 3) 菱田友昭, 野崎友里子, 加藤英政, 西本正純, 奥田晶彦. c-Myc/Max 複合体はES細胞のLIFを介した自己複製および分化多能性維持に必須である, 第33回日本分子生物学会, 平成22年12月, 神戸
- 4) 西本正純. RNaseプロテクションアッセイ. 村松正實, 山本雅, 岡崎康司編. 新遺伝子工学ハンドブック. 羊土社; 2011. p. 165-9.

*医学部 解剖学

© 2011 The Medical Society of Saitama Medical University

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>